

教科等	授業改善の視点（担当）	児童の学習状況	改善の計画と評価の方法
国語	①正確に理解し、適切に表現する力の育成【学校経営方針】 ②ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT 機器の活用】	①モデルを示したり、選択肢を示したりしながら、自分の考えをもつ工夫をしてきたが、基本的な語彙の量・質を獲得できておらず、文学作品での登場人物の関係性の変化や説明文の要旨を捉えることが難しく文を読むことに抵抗を感じる児童が目立つ。 ②学習支援アプリを活用すると文を書くことへの抵抗感が下がる児童が多く、また例示や友達の考えを共有しやすい。自分で正確に書く力も鍛える必要があるため、推敲や発案等で計画的に使用する必要がある。	①繰り返し教材を読みたくなる手立ての工夫、自分の理解に合わせてツール(ワークシート、例示、端末、ノート)を選ばせる工夫をし、言葉を使い換え説明する機会や自分の考えとその根拠を表現する機会を増やすようにする。 ②授業や単元の振り返りで ICT 機器を活用し、学びを蓄積していく。グループでの対話的な学習を増やし、児童自身が使い方を考えて意見の共有やまとめに活用できるようにする。
社会	①情報を適切に調べまとめる力の育成【学校経営方針】 ②ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT 機器の活用】	①資料から読み取ったことを基に学習問題を作り、解決に向けて適切な資料を選びまとめる学習を行ってきた。資料の数値を読み取ることはできるが、そこから考えたことや判断したことを説明したりまとめたりすることは苦手な児童が多い。 ②学習支援アプリを活用し、資料を細かく見たりまとめを作ったりする活動に児童は意欲的に取り組んでいた。カードの作成に多くの時間を割き、より深く考える時間を取るのが難しかった。	①身近な社会的事象から、日本を取り巻く事象に発展させて考えることを通して、資料の数値から考えられることだけでなく、その背景も踏まえて自分事として考えやすいようにしていく。 ②資料の提示、振り返りの記入として ICT 機器を活用する。調べたことをまとめる時には、ICT 機器やノートから学習内容と個に応じて選択できるようにし、考えを深める活動の機会を十分保証する。
算数	①問題解決の過程や結果を、図や式などを用いて数学的に表現し合い伝え合う力の育成【学校経営方針】 ②ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT 機器の活用】	①小数のかけ算やわり算の計算や、合同な三角形の作図などを作業として行うことはできる。しかし、その過程や理由について根拠をもって説明することが苦手な児童がとても多い。 ②考えを書いたノートを大型画面に提示し、児童の考えを児童の言葉で伝え合い、集団検討を行ってきた。	①計算や作図、問題解決の過程を自分なりの言葉で表現し伝え合う活動を多く取り入れることで、表現の仕方を身に付けられるようにする。 ②大型画面にノートや学習支援アプリにまとめた考えを提示し、考えを共有しやすくする。学習支援アプリを活用して振り返りを行い、自身の学びを蓄積していく。
理科	①問題解決の過程を通して、理科的な資質・能力の習得【学校経営方針】 ②ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT 機器の活用】	①変化とその要因との関わりに気付くよう、条件を関係付けながら実験方法を確認していった。種子の発芽や成長の条件については、調べたい条件をはっきりさせたい場合、どのように他の条件を制御したらよいか、具体的に考えることが難しい児童も 1 / 3 程いた。 ②児童は、技能的に学習支援アプリを使いこなすことができている。課題の把握や、結果の記録、振り返りに活用している。考えを深めるために児童同士の対話をより活発にできるようにすることが課題である。	①観察・実験ごとに、条件の違いや予想をノート等へ書き込ませる。その後、それぞれの結果を書き入れることができるようにし、 <u>変化と要因の関わりを考えさせるようにする。</u> ②学習支援アプリを更に活用し、自分の考えを言葉やその他の方法によって表現されたものを共有して対話していきそれによっていろいろな考え方を結び付けられるようにする。
音楽	①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【学校経営方針】 ②興味・関心を高め、理解を深めるための ICT 機器の活用【ICT 機器の活用】	①アンケート項目「すすんで学習している」に対して肯定的な回答をした児童は 92%。そのうち「とてもそう思う」と回答した児童は 48%で、他学年と比較するとやや低い傾向にあるが、他教科でも同様であるため、ほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。 ②アンケート項目「授業はわかりやすい」に対して「あまりそう思わない」の回答をした児童が 7%いる。音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くことや、それを表現に生かすことにむずかしさを感じている児童がみられる。また、器楽の技能の習熟に関して、一人ひとりの学習過程に応じた支援の充実が必要であると考えられる。	①感覚統合が促進されるような常時活動や、友達と関わり合う活動を取り入れ、 <u>相互意見交流や音楽表現を介した交流を通して、音楽表現を深めていく。</u> 録音や録画を活用して、演奏を振り返り、次の課題の見直しをもって主体的に活動できるようにする。 ②比較関連させる授業で、要素とその働きの視点から分析的に示し、考えを広げ、深めていくことができるようにする。ICT を活用し、思いや意図を視覚化できる教材教具を用いる。また、児童が自身の学習を評価し、 <u>自分自身で課題を選択、設定できるようにする</u> ことで、主体性をもって技能の習熟を図るようにする。

<p>図画 工作</p>	<p>①学ぶ楽しさを実感させる授業の充実【学校経営方針】</p> <p>②振り返り活動の充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①校内実施の「1 学期授業アンケート」では、「授業中、すすんで学習している」という質問項目に対して「とてもそう思う」「そう思う」の肯定的な回答をした児童が 96%であった。このことからほとんどの児童が主体的に授業へ参加していると考えられる。</p> <p>②製作活動中や製作後に互いの作品を鑑賞し合い、よさを見付けたり自分の表現に生かしたりすることについて、まだ成長できる部分があると考ええる。</p>	<p>①針金や電動糸のこぎりなど、新しい材料や用具についての経験を充実させ、児童が表し方や材料を自ら考えたり決定したりすることができるようにすることで、「すすんで学習している」という質問項目に対して 96%以上の肯定的な回答を得られるようにしていく。</p> <p>②作品完成後だけでなく、製作活動中であっても互いの作品を鑑賞したり互いに相談し合ったりしながら問題解決ができるように授業を展開していく。また、学習者用端末を使用して作品の共有を行い、学びを深めていけるようにする。単元末の児童の振り返りなどから授業者の授業改善を振り返る。</p>
<p>体育</p>	<p>①運動をする楽しさを実感し、日常的に体を動かすことへの意識の向上【学校経営方針】</p> <p>②ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」に対して、「とてもそう思う」と回答した児童は約 6 割であり、運動の日常化を図るためにはさらに意欲を高める必要がある。</p> <p>②学習支援アプリを活用することで、運動後の振り返りの際に文字を書くことへの抵抗を下げ、運動時間を増やすことにも繋がる。自身の動きを確認する際に、写真や動画を撮って確認することでも活用している。</p>	<p>①運動時間をしっかりと確保しつつ、自分で考えたり、グループで話し合ったりする時間を毎時間設定する。「できた」、「上手くいった」という実感を湧かせるためにも、称賛し合うことを普段から指導していき、左記の項目が 8 割以上になることを目標とする。</p> <p>②学習支援アプリを更に活用し、グループ内やペア同士で運動している様子を写真や動画で撮影する。自分自身の動きを確認することや意見の共有を図れるように活用をすすめる。</p>
<p>家庭</p>	<p>①基礎的な技能の定着と個に応じた指導の充実【学校経営方針】</p> <p>②ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①アンケート項目「すすんで学習している」に対して、肯定的な回答をした児童は 9 割以上だった。ソーイングや調理実習を通して、新しいことができるようになることを楽しみながら学習に取り組んでいる様子が見られた。</p> <p>②学習支援アプリを活用することで、活動時間が増えている。作業速度に個人差がある分、授業後に空いている時間を使って振り返りをする児童も多かった。</p>	<p>①今後の実習では、今まで以上に難しい技能的な面も含まれてくる。ボランティアの方にも引き続きお力をお借りして、全員が「できた」と実感できる個に応じた指導をしていき、引き続き 9 割以上を継続できるようにする。</p> <p>②作業の様子を撮影したり、お手本になる写真や動画を繰り返し確認したりするなど、さらに ICT 機器の活用をすすめる。振り返りの内容を蓄積して振り返りやすくすることで、自身の成長を感じ取れるようにする。</p>
<p>外国語</p>	<p>①言語活動の充実（「考え」「書く」活動の推進）【学校経営方針】</p> <p>②ICT 機器利用を通して意見を示させ、共有させる工夫【ICT 機器の活用】</p>	<p>①定型文だけでなく「like」や「want」等を用いた文章を追加して自分の考えを伝えたり書いたりできる児童が学年の半数程度いる。アルファベットや文章の書き写しなど「書く力」が伸びたが、継続した指導が必要な児童もいる。</p> <p>②アンケートの「授業中、すすんで学習している」という質問に「あまりそう思わない」「そう思わない」と答えた児童が 11%いる。英語で自分の考えを伝える語彙や表現を増やして自信を付けたり、すすんで学習に取り組める手だてを講じたりすることが必要である。</p>	<p>①「書く」活動の前段階である「読む」活動を充足させるため、ふさわしい単語を選ぶ活動を単語カードや ICT を用いて毎週行っていく。アルファベットに関しても定期的に小テスト等を用いて定着を図る。</p> <p>②高学年において英語で自分の意見を示し共有させるために、多くの英語を聞き話す活動の充実を図る。そのために学習者用デジタル教科書を用いて、児童それぞれに必要な量や速さで英語に触れさせる期間を増やす。また、授業の初めに繰り返し small talk を取り入れて英語を用いる経験を増やしたり、教科書に用いられている定型の話型の他に会話を成立させるためのリアクションも学ばせたりして、児童が使える語彙や表現を増やす。結果、授業アンケートにおいて、「すすんで学習している」という項目に対し肯定的な児童が 90%を上回ることを目指す。</p>
<p>道徳</p>	<p>①主体的に自己を見つめ、考えを深める授業の充実【学校経営方針】</p> <p>②ICT 機器を用いた課題把握と振り返りの充実【ICT 機器の活用】</p>	<p>①場面や登場人物の様子に寄り添うことができる一方、自分の意見を表現し、道徳的価値をさらに高めていくことに苦手意識がある児童も見られる。道徳の授業の中で考えたことと、学校生活の過ごし方を結び付けることが苦手で、道徳的価値を自分の生活でも実現しようとする道徳的実践意欲を高めることが課題である。</p> <p>②主に振り返りや意識調査などで学習支援アプリを活用している。</p>	<p>①一斉指導だけでなく、計画的にグループ、ペア等での対話的な学習を行い、挙手で発言しにくい児童も自分の考えを伝える機会を増やす。振り返りのときに、自分の経験や生活を想起する時間を意図的に取り入れる。</p> <p>②道徳の時間での端末の活用方法を学年で共有し、より効果的な使用方法を模索する。</p>

